

シリーズ《生き続ける文化財》：世界遺産『延暦寺』と比叡山

稻荷山から北に連なる東山三十六峰は、北端が比叡山といわれます。比叡山は平安京の鬼門に位置し、平安京遷都にあたり、桓武天皇は一乗止観院で鬼神鎮めの法要を営みました。その場所は比叡山延暦寺の根本中道です。延暦寺は比叡山中に100を超える堂舎を築き、後に法然、栄西、親鸞、道元、日蓮ら日本の仏教各派の始祖となった高僧を世に送り出した修行の寺です。そこで秋の比叡山に上り、東塔、西塔、横川の順に高低差が激しい延暦寺の境内を巡り歩きましょう。

《紹介》

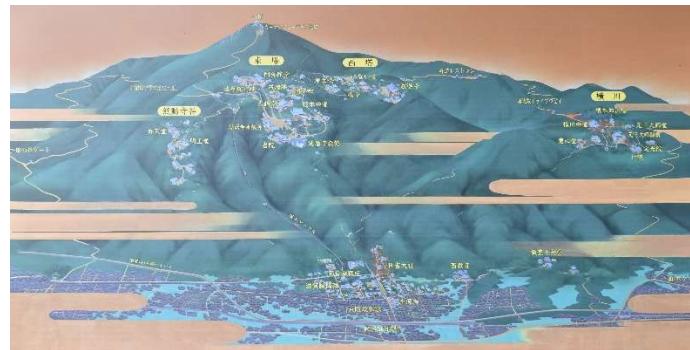
平安京の鬼門に位置する比叡山は、標高848メートルの靈山である。この山を学問と修行の場としたのが延暦寺である。

延暦寺は、最澄が785(延暦4)年比叡山中に草庵を結び3年後に一乗止観院(いちじょうしかんいん)を創建したことにはじまる。このとき自刻の薬師如来像を安置し灯明を点じた。この灯は今日まで続いている“不滅の法灯”と呼ばれる。

794(延暦13)年の平安京遷都にあたり、鬼門に聳える比叡山の鬼神鎮めの法要が一乗止観院で盛大に営まれた。桓武天皇という最大の外護者を得た最澄は、31歳の若さで朝廷の内供奉(ないぐぶ)に任せられ、一乗止観院も官寺に準じる待遇を受けた。804(延暦23)年から1年間、最澄は唐に渡って天台教学を学び、禪の教えや密教の伝法を受けて、円密一致といわれる日本天台宗の基礎をつくりあげた。帰国後の806(大同元)年、朝廷から天台宗に年分度者(国家公認の僧の資格)が割り当てられ、天台宗が正式に公認された。最澄は822(弘仁13)年6月4日に遷化したが、その7日後悲願であった比叡山独自の大乗戒壇の設立と天台僧育成制度の樹立が勅許され、比叡山の日本天台宗が名実ともに根をおろした。

こうして延暦寺は平安京の鬼門を護る王城鎮護の寺として崇敬され、平安末期から鎌倉時代はじめにかけては、法然・栄西・親鸞・道元・日蓮といった各宗派の開祖たちが比叡山で学び、後に比叡山は日本佛教の母山と呼ばれるようになったのである。

比叡山延暦寺(案内図)



根本中堂(改修工事中)



延暦寺の堂舎は、10世紀後期には現在のように東塔、西塔、横川の3地域を中心に整備され、隆盛を築いていた。その後火災のたびに再建が繰り返され、特に1571(元亀2)年の信長による焼き討ちにより、峰の西側に建つ瑠璃堂、相輪檜を除く全てが焼失したが、秀吉や家康の援助で堂塔の再整備が進んでいった。

総本堂である根本中堂は、徳川三代将軍家光により1640(寛永17)年に再建されたもので、桁行11間・梁間

谷間の樹海
搖れ動く
修行道

6間の規模は平安時代以来のもの。須弥壇のある内陣は、参拝者の目の高さに合わせるために、中陣・外陣より一段低い土間となっており、天台宗の仏堂の特色をよく示している。根本中道の前面には中庭を囲んで凹字形に廻廊が設けられている。この廻廊は 1642(寛永 19)年に完成したもので、柱を三列にならべ、内側を床敷、外側を石敷とする。屋根は根本中堂が瓦棒銅板葺に改められたが、廻廊は当初のとち葺のままである。根本中道は 2016(平成 28)年から大改修が行われているが、改修現場を間近に見ることができる。

西塔の中心となる転法輪堂は山内最古の 1347(貞和 3)年頃の建物で、「釈迦堂」とも呼ばれる。信長の焼き討ち後、園城寺(三井寺)の弥勒堂(金堂)を 1595(文禄 4)年に移築したもの。前方 2間の外陣の床は板張とし、内陣は一段低い土間となっており、天台宗本堂の基本的平面構成となっている。

転法輪堂の南側に建つ 2つのお堂が常行堂と法華堂。それぞれ 5間四方の建物で、背面出入口を除いて左右対称に造られ、法華三昧、常行三昧の修行の堂である。渡り廊下をにない棒に見立て、両堂を合わせて「にない堂」と呼んでいる。

比叡山を修業の場とする延暦寺は、比叡山中に 1,700ha もの広大な境内を有する。これは京都市中心部の上・中・下京区を合わせた面積の 8割に相当する。うち 97%は山林であるが、明治維新で領地が大きく揺れた。新政府による社寺領上知令(明治 4年)と地租改正(明治 6年)により、山林 1,128 町歩(=ha)が上地され官有地となってしまったのだ。延暦寺は森林の下戻し請求を行い、不許可処分となつたため、政府の国有土地森林原野下戻法(明治 32年)制定を受け直ちに行政裁判所へ提訴し、1908(明治 41)年、訴訟中の土地を除く 1,020 町歩の下払いが認められたのである。

➤ 延暦寺の堂塔



・大講堂(東塔)



・文殊楼(東塔)



・釈迦堂(西塔)



・浄土院(西塔)



・横川中道(横川)



・元三大師堂(横川)

➤ 比叡山からの眺め



温暖化 駆け抜けてゆく 秋の暮

こうして比叡山に広大な森林を有する延暦寺は、現在「比叡森林継承プロジェクト」を立ち上げ、宗教的雰囲気のある境内林と、境外林として水源林、天然林、観光林、経営林、資材林、里山林にゾーニングして適正に管理していくとしている。これにより、宗教的莊厳さの中にあって、豊かな水を保ち、多くの動植物を育み、様々な資源となる森林を次世代に継承して行こうと努力している。